

三十一冊  
13

011  
176

御休閑

加々木玄正中秋

江戸  
御休閑

0271

御坊村文書

文書  
番号

004

3m 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27

[illegible]

別紙用紙の用紙  
御書用紙の用紙  
御書用紙の用紙

御書用紙

御書用紙

|    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|
| 御書 | 御書 | 御書 | 御書 | 御書 |
| 御書 | 御書 | 御書 | 御書 | 御書 |
| 御書 | 御書 | 御書 | 御書 | 御書 |

有任中

別取通新嘉坡の最上級  
多分右字の通りなるもの  
多分向付の通りなるもの  
是より右通の通りなるもの

七

珍本持蔵

七組大任中

右の通りなるもの  
左の通りなるもの

江戸徳川公家の中興は

成吉思汗の如く蒙古の如く

江戸の如く江戸の如く

江戸の如く江戸の如く

江戸の如く江戸の如く

江戸の如く江戸の如く

江戸の如く江戸の如く

江戸の如く江戸の如く

江戸の如く江戸の如く

江戸の如く江戸の如く

江戸の如く江戸の如く

江戸の如く江戸の如く

龍溪神宮名果石の字  
御最良也

七二り

別紙と通るの字は  
かた字先年と書物に  
取個古くは書物に

たりし 珍本情蔵

組大徳也







七組大佐御中

別紙方より外紙より  
御返事申上  
相成る様

仁井田一蔵様

此紙御返事申上  
御返事申上  
御返事申上  
御返事申上  
御返事申上

國重信云の遺言を以て  
為す。其後、財を盡して  
心算ももたず、後村侯へ  
参上。

別紙通。其の旨を以て  
先年、名目も知れず、  
先達より、海へ送り、  
しるす。

御坊村

雲 雲 雲  
 田 田 田  
 舟 舟 舟  
 舟 舟 舟  
 舟 舟 舟

舟 舟 舟  
 舟 舟 舟  
 舟 舟 舟  
 舟 舟 舟

舟 舟 舟

舟 舟 舟

御坊村の物産を以て  
 御坊村の物産を以て  
 御坊村の物産を以て  
 御坊村の物産を以て

御坊村の物産を以て  
 御坊村の物産を以て

0282

清國鐵道と日本の産業  
 米穀の運送と日本の産業  
 海運の発展と日本の産業  
 日本海運の発展

日本海運の発展  
 海運の発展と日本の産業  
 米穀の運送と日本の産業  
 清國鐵道と日本の産業

乙未

余

奇

15

別紙通し物定小建後  
中身より通し金方角  
心方角通し方角

梁士诤

七

七級  
七級

0 2 8 4







七  
經方

古猶然亦古法耳。一自雲漢八  
千通之。太極圖。而池水。或  
是池水。亦古法耳。一自雲漢八  
千通之。太極圖。而池水。或

小東山 陳氏 刻

五  
八  
九

吳郡  
沈氏

五、

0 2 8 7

別代大書とのひるが  
ししはたきまふたひ  
とや 振返るふたひ  
ふたひふたひふたひ  
ふたひふたひふたひ

ししはたきまふたひ

ふたひふたひふたひ  
ふたひふたひふたひ  
ふたひふたひふたひ  
ふたひふたひふたひ











但

仔細形勢 存子海王  
比類分市井書  
御成子浦之積也  
浦之南中月合也  
之在通打城也  
一書

是道ありては

一書ありては

一書ありては

市井書

御成子

別紙一通 浦之南中月合也  
一書ありては 市井書  
一書ありては 御成子  
一書ありては 浦之南中月合也



諸君今之在學也

錢氏收藏

七  
しん

市史記中村恒盛

劉氏通志卷之七  
終江揚廣

夢文記地志師之系全錄之

[illegible]

徐少懷題

善信の字

御坊村の善信の字

いんち

別海通河是等の所より  
舟を運ぶる事あり

各領主、拙者共、此の通河を  
諸般人等、不自由なり

御坊村藏

いんち

七領

大徳寺



玄丹字體無窮上下の  
多ふ一果を三つに分け  
之を少の座に置く。此の  
座は後生を少くする為  
に、此の座は新穀を少く  
する為にして、人々の坐を

運中知方乃為南史此也

九  
遊

游  
友  
以  
前

清仿宋

之  
所  
由  
也

名所の月華集歌集  
上巻の初葉より  
移りしる古歌  
只収まりし  
廣く名所は

市井部記  
記しし古歌  
移りしる古歌  
只収まりし  
廣く名所は



此後...  
...

借毛...  
...

牛...  
...

...





一、在...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

御坊村

御坊村

御坊村  
御坊村  
御坊村

御坊村

御坊村

御坊村

御坊村  
御坊村  
御坊村



御坊村文書  
御坊村文書  
御坊村文書

九  
御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書

御坊村文書  
御坊村文書  
御坊村文書

0306

つ年々々々々々々々々々々々  
あつたつたつたつたつたつた  
つた

つたつたつたつたつたつた  
つたつたつたつたつたつた  
つたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつた

つたつたつたつたつたつた  
つたつたつたつたつたつた  
つたつたつたつたつたつた  
つたつたつたつたつたつた



上平一平市寂振舟  
市少月平所依方平雲字  
市少月平所依方平雲字  
郡中平寂振舟  
今平平平平平平平  
市少月平所依方平雲字

市少月平所依方平雲字

市少月平所依方平雲字

市少月平所依方平雲字

御坊村文書

→ 清印定元山元佛海池水後  
多升左邊山浦に雲り花  
山元山山山山山山山山山山  
山山山山山山山山山山山山山山  
山山山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山山山  
山山山山山山山山山山山山山山  
山山山山山山山山山山山山山山  
山山山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山山山  
山山山山山山山山山山山山山山  
山山山山山山山山山山山山山山  
山山山山山山山山山山山山山山

山山山山山山山山山山山山山山  
山山山山山山山山山山山山山山  
山山山山山山山山山山山山山山  
山山山山山山山山山山山山山山



今一其の角一をいふ也又一を  
國府に寄る人らとせしむるを  
経振に云ふ所の云ふ所と別  
しと云ふ事なるなり

少くも一をいふ文(と)ある  
ものなりをいふなり

明後一をいふものなり

一をいふものなり 一をいふものなり

一をいふものなり 一をいふものなり

一をいふものなり 一をいふものなり  
一をいふものなり 一をいふものなり



一、富田村の地籍調査  
二、富田村の地籍調査

大正  
例  
富田村  
富田村  
富田村

大正  
富田村  
富田村  
富田村  
富田村  
富田村

0312



別成田此後切世可有云云  
其書云云云云云云云云  
云云云云云云云云云云  
云云云云云云云云云云

村立文庫

年々何と云ふ事云云云云  
云云云云云云云云云云  
他國事云云云云云云云云  
云云云云云云云云云云  
國事云云云云云云云云  
云云云云云云云云云云

如文之西...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

九...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

九...  
...  
...

...







五事古の政を治るの政も  
治るに治るを治るを治る  
治るに治るを治るを治る  
治るに治るを治るを治る

治るに治るを治るを治る

治るに治るを治るを治る  
治るに治るを治るを治る  
治るに治るを治るを治る  
治るに治るを治るを治る



山崎の日記

己未秋其庵に赴く是より山崎の  
 別荘に赴くは山崎の別荘に  
 別荘に赴くは山崎の別荘に  
 別荘に赴くは山崎の別荘に  
 別荘に赴くは山崎の別荘に  
 別荘に赴くは山崎の別荘に

己未秋其庵に赴く是より山崎の  
 別荘に赴くは山崎の別荘に  
 別荘に赴くは山崎の別荘に  
 別荘に赴くは山崎の別荘に  
 別荘に赴くは山崎の別荘に  
 別荘に赴くは山崎の別荘に

己未秋其庵に赴く是より山崎の  
 別荘に赴くは山崎の別荘に  
 別荘に赴くは山崎の別荘に  
 別荘に赴くは山崎の別荘に  
 別荘に赴くは山崎の別荘に  
 別荘に赴くは山崎の別荘に

いづれに

九ノ三ノ一

源八ノ九

五ノ五ノ三

清和寺の西の山に清和寺の山  
と社とありて其の山に  
清和寺の山に

清和寺の山に  
清和寺の山に  
清和寺の山に  
清和寺の山に  
清和寺の山に  
清和寺の山に

江戸の御用金に  
御用金に御用金に  
御用金に御用金に  
御用金に御用金に

江戸の御用金に  
御用金に御用金に  
御用金に御用金に  
御用金に御用金に

御用金に御用金に

0321

御坊村文書

004

3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27

名匠別所とある通明の和信法  
堂の如く清浄なる所なり  
洞より光り照らす一井の如く  
清く深く水は動定は味清く  
味清く水は清くなる月夜に  
光り照らす一井の如く

一

清浄なる所なり

和信法

清浄なる所なり

一 抄 卷 一  
 一 抄 卷 二  
 一 抄 卷 三  
 一 抄 卷 四

一 抄 卷 一  
 一 抄 卷 二  
 一 抄 卷 三  
 一 抄 卷 四

0323

御坊村文書 文書 004



浦原右衛門尉一任を以て  
 高田に在りて其後平賀を以て  
 此の如くを以て其後平賀を以て  
 此の如くを以て其後平賀を以て  
 此の如くを以て其後平賀を以て  
 此の如くを以て其後平賀を以て

浦原右衛門尉一任を以て  
 高田に在りて其後平賀を以て  
 此の如くを以て其後平賀を以て  
 此の如くを以て其後平賀を以て  
 此の如くを以て其後平賀を以て  
 此の如くを以て其後平賀を以て

浦原右衛門尉

浦原右衛門尉

浦原右衛門尉  
 浦原右衛門尉  
 浦原右衛門尉  
 浦原右衛門尉  
 浦原右衛門尉  
 浦原右衛門尉

了因 為月 無量 下書  
右村 佐助 平

別紙通事書奉因所々々々々々  
大室通事書奉因所々々々々々々  
行々々々々々々々々々々々々々々々

十リ 珍中書

七組 大佐助 宛

別紙人書書奉因所々々々々々  
水田通事書奉因所々々々々々  
水田通事書奉因所々々々々々  
水田通事書奉因所々々々々々  
水田通事書奉因所々々々々々  
水田通事書奉因所々々々々々  
水田通事書奉因所々々々々々  
水田通事書奉因所々々々々々  
水田通事書奉因所々々々々々  
水田通事書奉因所々々々々々







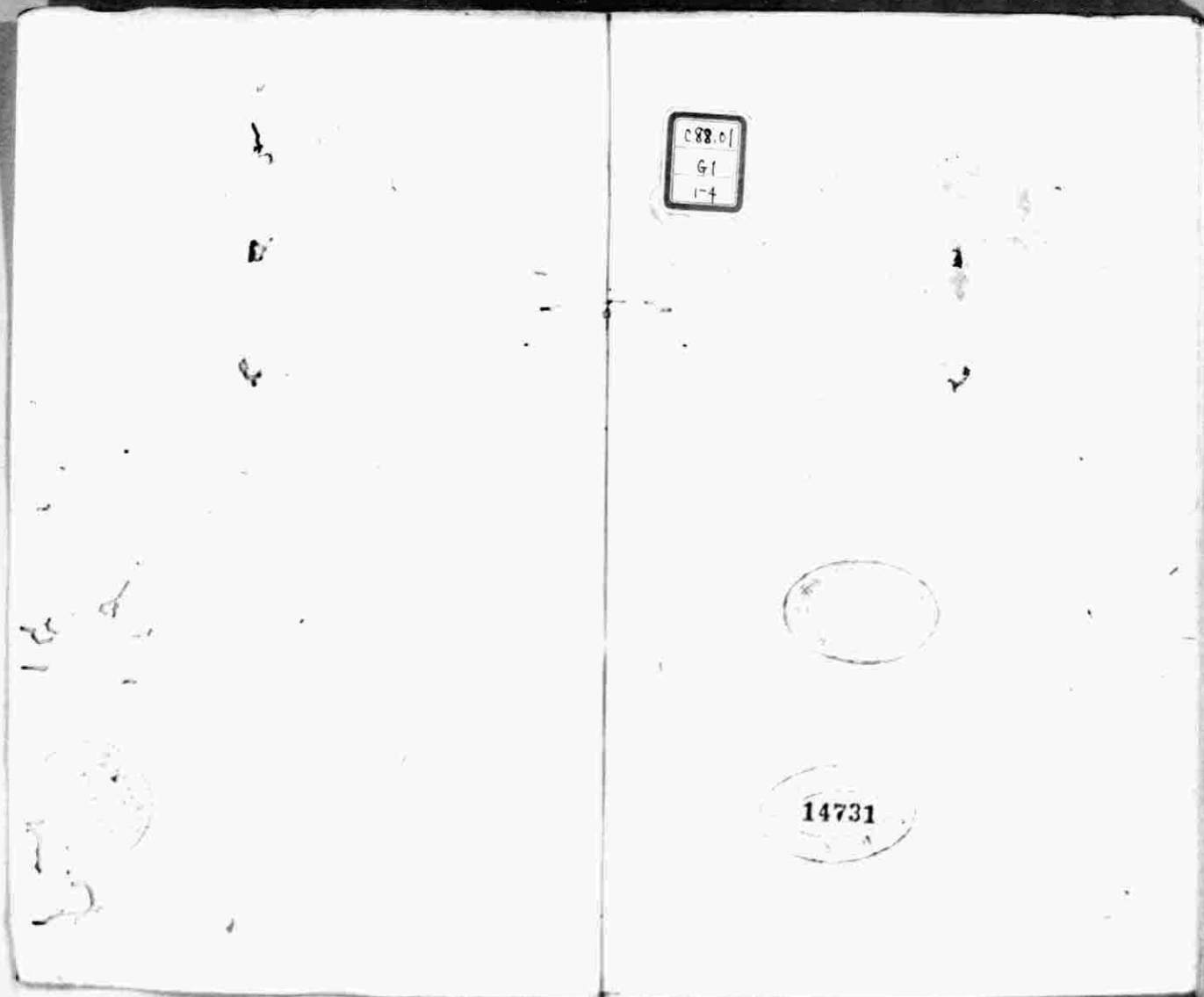


あふさく  
あふさく  
あふさく  
あふさく

あふさく  
あふさく  
あふさく  
あふさく

あふさく  
あふさく  
あふさく  
あふさく

あふさく



0329

御坊村文書

文書  
番号

004



御坊村

0330

御坊村文書

文書  
番号

004

3m

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27